

ちひろが描いた戦争と平和

「フォーラム・子どもたちの未来のために」が講演会開く



幅広い児童文学・絵本の関係者でつくる「フォーラム・子どもたちの未来のために」は7月19日、都内で、

いわさきちひろ生誕100年を記念して講演会を開きました。画家いわさきちひろの長男で、美術・絵本評論家の松本猛さんが、「ちひろが描いた戦争と平和」と題して語りました。(写真)

松本さんは、ベトナム戦争反対を訴える絵本『戦火のなかの子どもたち』に触れ、「東京の裕福な家庭で育ったちひろは、両親と共に『満洲』へ渡り、開拓団と軍隊の生活を垣間見ます。引き揚げてか

らは東京大空襲に遭い、戦後は、一貫して戦争に反対した共産党に感銘を受けて入党しました」と、反戦への思いを強固にした半生を紹介。「ベトナムの子どもイメージは遠い海の向こうの出来事ではなく自分の事としてよみがえってきたのでしょう」と、表現に及ぼした影響について言及しました。

中でも、消しゴムでこすった痕跡のみられる少女のスケッチは特徴的で、「書いては消す作業の繰り返しは、戦争で亡くなった大勢の子どもたちへの思いに重なっていったのでは」と強調。

最後に、「大切な、罪のない子どもたちが犠牲になる戦争を絶対に起こしてはならない」との思いで制作するため、ちひろを支えた編集者は無二の存在だと感謝を述べました。